

## 「新しいぶどう酒は」

ルカによる福音書 第5章 38節

説教 岡村 恒 牧師

「新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れるべきである。」(38節)という言葉聞いた人々は、最初、「新しいぶどう酒」がいったい何のことか、わかりませんでした。

この言葉をお語りになった時、人の乾きをいやし、命を与える、本当の新しいぶどう酒とは、実は、主イエスご自身であることを、主はお語りになりました。そして、この言葉を聞く私たちを、新しい皮袋のように造り変えられて、主イエスの命を迎え入れて生きるとお招きになりました。

神の前で味わう本当の命がある。これは、聖書がはっきりと語る私たちの救いの話です。地上を歩むどんな人間にも無くてはならない「まことの命」の話です。主イエス・キリストが地上に来てくださったのは、この命を私たちに与える為でした。ただその為だけに、神のひとり子主イエスは、人となっておいでになり、十字架に磔にされ、墓から引き上げられ、今も生きて私たちのために執り成しをしてくださっています。今朝、私たちのために食卓を用意してくださったのも、私たちを新しい皮袋に造りかえ、本当の命を与えて生きる者にするためでした。

「アドヴェント(待降節)」に、私たちは《悔い改め》の時を過ぎました。悔い改めは、それまでの歩みを後悔して多少の方向修正をする〈改心(心を改める)〉とは違います。進むべき方向を完全に忘れてしまう〈回心(心を回す)〉です。神に向かって新しく歩むことです。

バプテスマのヨハネという人は、やがて到来する救い主のために、人々に悔い改めを奨め、〈悔い改めのバプテスマ〉を授けました。パリサイ人と呼ばれる人々も、週2回の断食を欠かさず、神の言葉に忠実に生きようとしました。ですから、断食をしない主イエスの弟子たちや、その見本を示さない主イエスの姿はとても不思議でした。神に喜ばれる生活をするべきではないか、と抗議をしないではいられませんでした。

この問いに対して主イエスは、着物につき当てをするたとえ、ぶどう酒を革袋にいれるたとえを用いてお答えになりました。真新しい布きれで古い着物につき当てると、新しい布きれだけがどんどん縮んでいって、着物を破ってしまいます。新しいぶどう酒を古い革袋に入れると、発酵がすすんでいって革袋を破裂させてしまいます。当時の人なら誰でも分かるあたり前の話でした。

主イエスは、断食が無駄だと言われたのではありません。主ご自身も繰り返し断食をし、一人で祈り、神に集中して歩まれました。この日主イエスは、新しい布きれ、新しいぶどう酒という言葉で、ご自分の〈新しさ〉についてお話になったのです。

主イエスは、誰も予想しない仕方生まれ、人々の期待に関わりなく神の国について語り、とうてい受け入れることができない姿で十字架の上で死なれたお方です。主イエスは言葉と行動によって、神の国、神の支配が来たことをお示しになりました。悪霊を追い出し、病気の人をいやして、死人をよみがえらせ、神の力がもう既にこの地上で発揮されていることをお示しになりました。そして、これまでとは全く異なる〈新しい時〉が来た、と言われたのです。

2月にはレント(受難節)を迎えます。この期間、私たちは《悔い改め》の祈りを捧げます。自分の力では、自分を造り変えて新しい革袋になることはできません。ただ神だけが、私たちを全く新しく造り変えることができます。そして、新しい命そのものである主イエスを、自分自身の救い主として、私たちの内に迎え入れさせて下さいます。古い、滅びるべき私たちが、新しい命を内に宿して生きようになるのです。主イエスは、私たちを生まれ変えさせ、全く新しく造られた者として生かして下さる救い主です。

人間の努力や、宗教的熱心さなどに、私たち人間を救う力はありません。しかし、主イエスには私たちを救う力があります。私たちを引き上げて、神の前に立たせて下さる力があります。神は、主イエスをこの世界にお遣わし下さいました。そして、主イエスの十字架の贖いによって、古びた皮袋のように裂けて滅び去るはずの私たちを、全く新しい者に造り変えて、完全な者にしてくださったのです。

私たちは礼拝のたびごとに、祈るたびごとに、心を神に引き上げられて歩みます。ただ神の憐れみによって新しく造り変えられたという事実を繰り返し確認し、まことの命に生きる喜びを噛みしめて歩みます。主がお与え下さる命がどれほど新しく、どれほど激しく発酵し続ける命であっても、私たちは決して破れることがありません。新しい者だからです。神の恵みを誉め称えて歩むことができる恵みを、神に感謝しつつ歩みことができるのです。

(記 岡村 恒)